



2015年11月10日

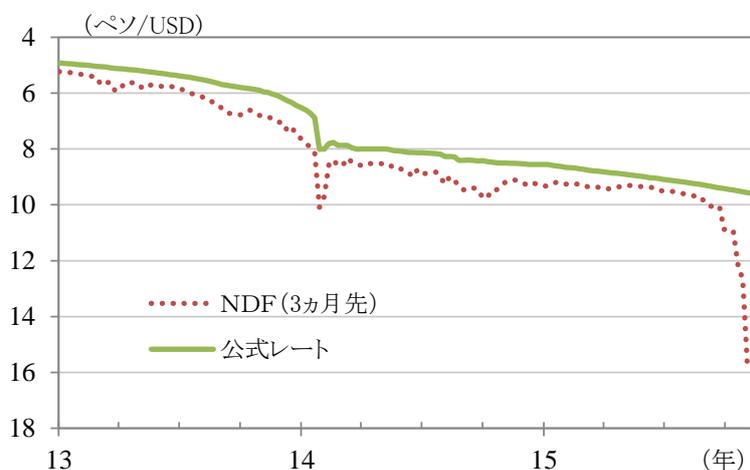
アルゼンチンで政権交代の可能性

公益財団法人 国際通貨研究所
経済調査部 上席研究員 森川 央

11月22日の大統領選挙（決選投票）まで2週間を切ったが、野党候補のマクリ氏が現政権の後継者シオリ候補をリードしている。最近の世論調査ではマクリ候補への支持率が46%であったのに対し、シオリ候補への支持は40%に留まった。

マクリ候補はビジネス界出身で、当選のあかつきには即時に為替規制や輸入規制を撤廃すると公約している。マクリ氏優勢とみて、為替市場はペソの下落を織り込み始めた。公式レートは1ドル=9.58ペソだが、3ヵ月後先物（NDF）は1ドル=15.46ペソとなっており、約6割の下落を織り込んでいる。

アルゼンチンペソ対ドルレート



(資料) Thomson Reuters

アルゼンチンは、拡張的な財政政策が長年続いており、インフレ率は今も高い（政府の統計では14%だが、野党議員が発表している民間コンサルタント8社の平均は26%で、こちらの方が実態を反映していると言われている）。ペソ急落後は、更にインフレ率が高まり、アルゼンチン経済は、再びマイナス成長に陥る可能性がある。2016年は厳しい年になるだろう。これまで必要な調整を先送りしてきたツケは大きい。

しかし、ビジネス指向のマクリ氏は外資との関係修復にも意欲を見せており、暗礁に乗り上げている対外債務問題でも妥協点を探る可能性がある。これまで、孤立気味だったアルゼンチンだが、外資流入が復活する可能性が出てきたと言えよう。

当面は厳しい情勢が続くだろうが、調整が一巡する 2017 年以降は回復の可能性が出てきた。アルゼンチンは再出発のきっかけをつかむことができるのか。22 日の大統領選の結果に注目したい。

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。